学好中国话，为日中友好起桥梁作用！

日中学院報

2018年 1

毎月1回1日発行　第514号

編集発行人・片寄浩紀

定価1部100円／1年1000円（送共）
郵便振替　東京00100-38184

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3
TEL 03-3814-3591 FAX 03-3814-3590
URL https://www.rizhong.org/
E-mail info@rizhong.org

12/6　本科・日本語科交流授業が行われました。

新年あけましておめでとうございます。

今年は日中平和友好条約締結40周年に当たります。人に例えれば不惑の年です。日中両国が今後も揺るぎなく平和と友好の年輪を積み重ねていくよう、我々は決意を新たにしたいと思います。

中国には「憶苦思甜」という言葉があります。過去の苦しさを思い、現在の幸せをかみしめるという意味です。ここで日中平和友好条約締結の年（1978年）から40年さかのぼった年の日中関係を振り返って見ましょう。時は1938年。前年の7月7日に北京で盧溝橋事件が勃発し、日中戦争が始まり、次第に拡大しつつあった年でした。その後1941年には日米戦争が始まり、1945年に日本の全面降伏で戦争の時代が終わりました。

戦後、日本は西側諸国と逐次国交を正常化しましたが、中国とは27年もの国交断絶の期間をへて、1972年にやっと国交を正常化しました。また、平和憲法の下、日本は戦争に直接関与することはありませんでしたが、朝鮮戦争やベトナム戦争には在日米軍基地を通じて、間接的にアメリカのアジアでの戦争に関わってきたことは忘れてはなりません。

日中学院は敗戦のわずか6年後の1951年に、倉石中国語講習会として創立されました。「学好中国話、為日中友好起橋梁作用」という建学の精神は脈々と今に継承されています。

日中学院は昨年、学生、教職員、校友会など全ての関係者の努力で、本科・研究科、日本語科、別科合計約700人の陣容を維持することが出来ました。秋には新たに日本語科の10月期生19人を迎え入れることも出来ました。今年は日中学院に集い、学ぶ仲間をさらに増やしていきたいと考えています。

この学院が中国語と日本語を学ぶ専門学校であることは言うまでもありません。皆さんの学習が着実に前進し、実力が向上するよう、教職員一同が誠意を尽くしたいと思っております。そして言葉は生きている人間が使い、意思疎通を行う手段です。言葉が生きた言葉になり、相互理解が深まるためには、相手国の歴史や文化についても同時に学び、理解することが必要です。学院は語学研修の場であるだけでなく、豊かな人間性を養う場でもあります。今年はこのこともまた改めて考えてみたいと思っています。

この新しい1年が皆さまにとってよりよい年になるよう心よりお祈りいたします。

2018年元旦

日中学院　学院長　片寄浩紀

A先生の新語コーナー

tuōpín

“脱貧”

貧困脱却。中国共産党は2020年までに全貧困層の貧困脱却を実現することを公約している。中国の現行の貧困基準は1人年間2300元とされ、この基準に達しない人々が貧困層となる。習近平総書記は昨年10月開催の第19回党大会での報告で、過去5年の「歴史的成果」に触れた際、6000万人余りが貧困から抜け出した指摘した。中国は20年までに小康（ややゆとりのある）社会を全面的に完成させる目標を掲げているが、それには貧困解消が大きな前提となる。（A）

再び天津へ

別科専任講師　胡興智

2016年の天津外国語大学での別科短期留学が好評をいただき、2017年も同時期、第２回短期留学が行われました。もう少し長く学びたい、今の中国を体験したいという要望があったため、９月22日から10月６日まで日程が組まれ、23名の別科生の方々と一緒に留学研修に行ってきました。

天津にいる間、毎日、朝８時から11時40分まで二コマの授業があり、午後は書道や京劇鑑賞など文化理解授業や、博物館や古文化街の見学、夜は歓迎会、日本語学部の学生との交流会、遊覧船で天津夜景観賞、歓送会が行われた他、有志による開放式グランドでの市民ウォーキング・広場ダンスへの参加、更に、公園での太極拳体験や書店見学等々、日本では考えられない充実したカリキュラムで、最高齢78歳の方も含め、皆さんのエネルギー全開の短期留学となりました。

国際交流学院のトップも参加してくださり、盛大な開講式が行われました。その席では中国語の学習に当たり「沢山の中国人の友人を作り、相互理解を深めていただきたい。童心の如く好奇心を持ち、注意深く観察し、積極的にいろいろ体験していただきたい。沢山聞き、沢山話すよう練習していただきたい」というご助言があり、頷きながら聞いている学生の皆さんの眼差しは真剣そのものでした。

今、中国は、とにかく変化が激しく、校庭にはシェア自転車の黄色が目立ち、評判の軽食店が突如閉店するなど、驚くばかりです。去年初日の昼食は小銭がなくて苦労したので、行く前に学生の皆さんに中国元の小銭を準備していただいたところ、支払いは現金でなく、カード式の学生証か携帯でないとできないシステムになっており、初日は昼食サバイバルを体験できませんでした。もちろん、その後、臨時カードを作ってもらいましたが、日進月歩の変化に戸惑いを覚えずにはいられませんでした。

宿舎は、国際交流中心というビジネスホテル並みの施設で、一階にあるカフェで本を読んだり、宿題をしたりする海外の留学生をよく見かけました。別科の学生にとって、宿舎は単なる寝泊りの場ではないようです。夜中の３時まで勉強する方もいれば、３時から起き出して学ぶ方もおり、また、朗読大会のために遅くまで練習する方もいて、宿舎は正に分校のようでした。社会人の勉強ぶりを今の日本の大学生に是非見せてあげたいとつくづく思いました。

２回目の引率でしたが、多くの方々に支えられ、また沢山のことを学ばせていただき、本当に感謝しております。機会がありましたら、また皆さんと「再び天津へ」楽しみにしております。

勝手に

「漢詩和訓」（第一回）

Y先生

このコーナーでは、古来から書き下して読むのが主流の漢詩を、七七調に和訓して（読みやすい日本語を当てて）紹介します。原詩は五言詩であれば二字・三字の間、七言詩であれば四字・三字の間に意味の切れ目があるので、それを踏まえるとより読みやすいかと思います。

暮歸（きたく）

白居易（ハクキョイ）

不覺百年半（あっというまに じんせいなかば）
何曾一日閑（いちにちとして ゆっくりできず）
朝隨燭影出（くらいうちから しごとにむかい）
暮趣鼓聲還（くれのたいこが なるころもどる）
甕裏非無酒（かめにはさけが ないわけでなく）
牆頭亦有山（へいのむこうに やまものぞめる）
歸來長困臥（いえにつくなり くたびれねむる）
早晩得開顏（こんなまいにち いつまでつづく）

覺（おぼ）えず　百年半（ひやくねんなか）ばなり
何（なん）ぞ曾（かつ）て　一日（いちにち）も閑（かん）ならん
朝（あした）には燭影（しよくえい）に隨（したが）ひて出（い）で
暮（くれ）には鼓聲（こせい）を趣（お）うて還（かへ）る
甕裏（おうり）　酒（さけ）無（な）きに非（あら）ず
牆頭（しやうとう）　亦山（またやまあ）有（あ）り
歸（かへ）り來（きた）れば　長（つね）に困臥（こんぐわ）す
早晩（いつ）　顏（がん）を開（ひら）くを得（え）ん

図書室だより

劉文兵先生の講演に向けて

１月20日「中国人から見た日本の映画スターの系譜―高倉健とそれ以前、以降」のテーマで、劉文兵先生の講演が開催されます。それに先立ち、高倉健主演の２本の映画と先生の著書をご紹介します。

●『追捕』原題『君よ憤怒の河を渉れ』佐藤純弥監督

高倉健が共演者の中野良子と共に中国の国民的大スターになったのが、文化大革命終結の翌1978年公開されたこの映画です。中国全土に一大旋風をまきおこしたこの作品は、現在でも日中文化交流の歴史を語るには欠かせない存在となっています。その一方、中国版には原作の日本版からカットされているシーンが複数あることも見逃せず、そこから当時の中国の政治的志向を読み取ることができます。（中国語吹替え・字幕なし）

●『単騎、千里を走る。』原題『千里走単騎』張芸謀監督

『君よ憤怒の河を渉れ』では熱心な観客の一人にすぎなかった張芸謀が、高倉健の映画を撮ることを熱望して実現したのがこの作品。高倉健は息子と断絶した父親を演じます。

あらすじ―余命いくばくもないわが子との関係を繕うべく、雲南省の僻地に向かう。そこで彼は、中国の舞踏家とその子供、少数民族の人々に次々と出会うなかで、国境や言語、文化の壁を超えた心と心の交流を果たす―（『中国10億人の日本映画熱愛史』より）（日本語字幕）

― 劉文兵先生の著書 ―

- **『日本电影在中国』**　中国电影出版社　（写真左）
- **『中国10億人の日本映画熱愛史』**　集英社
- **『映画のなかの上海』**　慶應義塾大学出版会
- **『中国抗日映画・ドラマの世界』**　祥伝社
- **『日中映画交流史』**　東京大学出版会
- **『中国映画の熱愛的黄金期』**　岩波書店

このほか、講演の参考にしていただける図書やDVDも多数そろえております。

1月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
	1	2	3	4	5	6 ●仕事始め・開門 ●別科公開講座 13：00～ （入門・基礎）
7	8	9 ●別科公開講座 18：45～（入門）	10 ●本科・日本語科 授業再開 ●別科268期授業 開始	11	12	13
14	15 ●中国語検定受付 開始	16	17 ●日本語科（２年 生）国会見学	18	19 ●本科２次入試 受付締切	20 ●劉文共先生 講演会
21 ●本科２次入試	22	23 ●本科２次 合格発表	24 ●本科３次入試 受付開始	25	26	27 ●本科生のため 公開講座 9：30～
28	29	30	31			

●２月の日中学院
・６日…本科・日本語科　合同弁論大会
・15日…日本語科　春節パーティ
　　中国語検定受付締切
・16日…本科３次入試受付締切・春節
・18日…本科３次入試
・20日…本科３次入試合格発表
・21日…本科４次受付開始
・22日…本科・日本語科定期試験（～28日）
・26日…藤堂先生命日
・28日…日本語科　授業終了

「江尻さんをしのぶ会」のご案内

日中学院の前身である倉石中国語講習会の草創期から事務局職員として勤務し、後に日中学院の副学院長として経営を支えてこられた江尻健二さんが去る2017年10月５日に亡くなられました。下記により、故江尻健二さんをしのぶ会を開きます。生前故人と交流のあった方々と共に思い出を語りたいと思います。寒中ではありますが、お出かけくださるようお願い致します。

日時：2018年2月18日（日）
　　14:30～16：00
場所：日中学院の教室
　　（東京都文京区後楽1-5-3）
会費：お一人1000円
　　（当日受付でもらい受けます）

呼びかけ人　小田富裕子（日中学院校友会会長）
　　吉田　隆司（日中学院旧教職員）
　　片寄　浩紀（日中学院学院長）

★参加される方は事前に日中学院事務室までご連絡下さい。
　Tel：03-3814-3591　　Fax：03-3814-3590
　締切：２月10日（土）
★お花、供物、香典などはご辞退します。
★車でなく、公共交通手段でお出かけ下さい。
　最寄り駅は飯田橋駅（JR、地下鉄）、
　水道橋駅（JR、地下鉄）、後楽園駅（地下鉄）
★平服でお越しください。